

# 一年間の抱負

——おはなしの観点から——



村山桂子

お話という観点から、私の今年の計画の一端をお話したいと思います。といっても、特別すばらしい計画や抱負があるというわけではないのです。ただ、いつでもやっていることを、今年ではできるだけ充実したものにしたいと考えているだけのことなのです。いうまでもなく、幼児の言語活動は読む書くということではなく、聞くこと話すことが主体となっています。ですからお話については、何といってもいいお話を豊富に聞かせてやることが第一だと思います。それでは年間に、どんなお話をどれだけ与えたらいいのでしょうか。これがたいへんやっかいな問題です。音楽リズムや絵画製作のようなものと、研究会なども多く、年間にとりあげる内容が比較的是つきりしていますから、どここの幼稚園でも内容にそう大差はないようです。しかしお話の場合はその幼稚園によって、ずいぶんまちまちのようです。とりあげる作品も

まちまちならば、お話を扱う回数もずいぶん違ってきます。ある幼稚園ではたいへん熱心にお話をとり扱っているかと思えば、ほとんどお話などしたことがないというような極端なこともさえるようです。

いずれにしても、幼稚園での最近のお話のとり扱いは、他のものにくらべて、少し低調ではないかという気がするのですが、どうでしょうか。事実、私自身のこれは反省なのですが、お話というのはおつくうなものです。まず、幼児の発達段階にそくしたお話をえらぶことがたいへんです。それでたいした検討もしないで、手近にある作品を簡単にとりあげてしまします。また、例えば母の日がくるので、それにふさわしいお話をしやりたいと思いますが、適当なものがありません。それでついお話をしないしていると、そのうちテレビやラジオがこれを取りあげてくれます。そこ

で何となく、それでまにあわせてしまうということもあります。

こんな安易な考えではいけないと反省はするのですが、何しろ便利な世の中です。テレビ、ラジオ、レコード、そしていい絵本や紙芝居がたくさんあるものですから……けれど、どんなにテレビやラジオが普及しても、お話はそれらとは違います。お話の効果は、もちろんそのお話の内容がよくなくてはなりません。その上に話す人と聞く人との心の交流が必要だと思えます。(とくに幼児の場合は)そこにテレビやラジオなどと違ったお話独自の意味と効果があります。

今年はその意味からも、心をこめていいお話をたくさん与えようと思っています。そして、これは私ばかりでなく、私のクラスのおかあ様方にもお願いしようと計画をしています。忙がしいおかあ様方に、いいお話をえらんでという注文は難しいので、そこまでは申せませんが、お話を通して、できるだけ子どもとふれる機会をもってほしいのです。といいますのは、私の幼稚園のある地域は商業地で、おかあ様方がゆつくり子どもにお話をするなどという時間がないのです。ですからお使いの道すがらでも、お風呂にはいつているほんの短い時間でもいいと思います。できるだけ子どもにお話をする機会をみつけるようにここがけてもらおうと考えています。がさがさした都会の生活の中で、ほんのひとつきでも、じつくりと母と子の時間を持つことは、お話そのもの

にもまして、きっと効果があることでしょう。

さて、ここでまた前の問題にもどりますが、私の今年の計画はいいお話をたくさんに与えるということです。そこで今年はいいお話を探し、これを検討することをしなければなりません。五歳児の四月にどんなお話をしてやるのが最もいいのか、子どもの日のために話してやるお話はないかと頭を痛めます。お話はいくらもあるのですが、これはと思うものがありません。最近こうした保育者の悩みを幾分でも助けてくれるように編成された幼児のための童話などがでていますが、やはり自分自身の手で、自分の幼稚園にもっともふさわしいお話の年間計画をたてるべきだと思います。このような計画は、カリキュラムの一端として、もうすでに立派なものができている幼稚園も多いと思います。が、恥ずかしいことに私はまだ、そのようなしっかりした年間計画ができていません。そこで今年は、作品を保育の中で検討しながら、自分の園にふさわしいお話の年間計画を作成したいと思っています。また適当なお話がみつからない場合には、できるだけ自分で作品を創作し、実際の保育に役立てるようになるつもりです。また今年は年長組でもありますので、世界の名作といわれるものをたくさんに取りあげ、お話を聞いたのしさを思いきり味あわせたいと思います。

いずれにしても、お話の年間計画がしっかりできていれば、お

話を探すのがおっくうだったり、適当なものがないからといってお話をしないというようなことはなくなると思います。

次に、今年度もぜひ進めていきたいことに、幼児のお話づくりがあります。今年度もいきましたのは、今年のクラスが二年保育の年長組で、年少組のときずでにお話づくりを経験しているからです。お話づくりは、聞くという活動に対して話す活動です。が、お話を聞くということにくらべますと、かなり難しいことです。ですから、お話づくりを初める時期と、その動機をとらえることがなかなか大変です。けれど年少児には年少児のお話づくりのおもしろさや効果がありますので、お話づくりは年少組のときからはじめることにしています。ただ先にもいいましたように、その動機がむずかしいので、同じ年少組でも、その年によって、ずいぶん早くからできることもあれば、かなりあとになってからになる場合があります。いまのクラスが年少組のとき、初めてお話づくりをしたのは十一月頃でした。幼稚園の生活にもなれ、クラスとしてもぐっと落着きがでてきた頃で、お話づくりの時期としては適当な頃だと思えます。参考までにその時のきっかけになったことを少しお話いたします。

自由遊びのときでした。郵便屋さんごっこをしているAたちが、遊びながらこんなことをいっていました。

「Bちゃん郵便ですよ」

「はい、ありがとう。誰れから」

「まほうつかいからですよ」

「ひゃー、まほうつかいなんてこわいよう」

会話は子どもたちのそのときのでまかせですから、それっきりで終わってしまいましたが、内容はいかにも子どもらしく、お話として発展しそうですね、その日さっそくお話づくりのきっかけとしてとりあげてみました。

「さっきBちゃんのところへ、まほうつかいさんからお手紙がきたようだったけど。何て書いてあったの」するとAはすました顔をしていいました。「こんど、遊びにいきますって」

他の子どもたちも、すぐに、このまほうつかいの話にのってききました。こまかく書く枚数がありませんが、結局お話づくりで次のようなお話ができました。ざっと筋だけを書きますと、ある日、幼稚園の子どもたちのところへ、まほうつかいから手紙がくる。先生に読んでもらうと「わたしは森のまほうつかいです。ひとりぼっちでさみしいので、みんなのところへ遊びにいきます」と書いてある。みんなびっくりぎょうてん。悪いまほうつかいが子どもを連れにくるのではないかと心配する。ところが、ある日、とうとうまほうつかいがやってきてしまう。子どもたちはこわいので、みんな机の下や戸棚のかけにかくれてしまう。するとまほうつかいは、子どもたちがひとりも見えないの

で、がっかりしてワアワア泣いてしまう。その様子を見て、子どもたちはまほうつかいがかわいそうになり、でてきて、みんなで遊んであげる。まほうつかいは、よろこんで、子どもたちに、とてもすてきなお菓子をくれる。それは、きれいな色をしたきらきら光る氷のお菓子で、子どもたちは大よろこびをする。Ⅱ

というお話です。初めてでしたが、みなたいへん興味をもち、よく話はのってききましたので、みんなで作ったお話であるという意識をはっきりもたせ、お話づくりのたのしさを知らせるようにしました。

このようにして、その後もお話づくりを行い、かなりな順調に成果をあげていきました。そして年少組を終えるときには、「まほうつかいと子どもたち」をはじめ、いくつかのお話ができました。例えば、絵本の動物を食べるまねをしたら、ほんとうの動物になってびっくりした話、るすばんがいやなので、こっそりおかあさんのハンドバックにはいつて、デパートへいった話、やお屋さんへ買いものにかえりに、道草をしていたら、買いものかごの野菜が先にうちへ帰ってしまった話など…。これらは、できるだけ子どもたちに考えさせ、その発言をもとにしてつくったものですが、お話によっては、私が強引に引っばっていき、まとめたものも多いです。これは幼児の場合いたしかたのないことです。が、今年はずっと子どもたちを活動させ、お話づくりを活発

にしたいと思います。またこれまでは、お話づくりの中心になる者が何人かいて、その人たちがいい発言をするので、ついそれが中心になってしまいましたが、今年ではできるだけ大ぜいが、いえ、みんながお話づくりに参加するようにしなければならぬと思っています。そうして今年、つくったお話をそのままつくりっぱなしにしないで、くりかえしたのしむようにするつもりです。そうすれば、お話づくりのときに発表しない人たちでも、もう知っている話、しかも自分たちでつくったお話ですから、きつとよろこんで話すのではないかと思います。

いずれにしても、来年の今頃までには、またたのしい子どもたちのお話が、いろいろできることだろうと、いまからのしみにしています。

お話づくりの効果は、絵や音楽のように、すぐ目に見えるものではありません。しかし豊かな情操を養うために、また発達途上の言語活動を活発にするために、ぜひとも必要な活動ではないでしょうか。お話づくりにより喜んで参加している子どもたちの顔ぶれを見ると、やはり、あらゆることに意欲的でいきいきとしているような気がします。

今年はお話づくりによって、そのような意欲に充ちていきいきとした幼児をつくりたいと思ったら、それはあまりにだいたいそれだいいぶんになるでしょうか。

(談路町幼稚園)